

遠い昔と言っていいほど 昔の話です

2010年度 博士前期課程修了 岸 博之さん

遠い昔と言っていいほど昔の話です。私は、研究とは縁のない大学生活を送っていました。まさか、今ここで、同じ場所で、自分が研究している姿を誰もが想像しなかったことだと思います。な



んせ学部時代に5年も費やして卒業するのがやっとでしたから。振り返れば、博士前期課程、後期課程併せると、これまでの人生で10年間本学と関係しているんです。我ながらびっくりします。

では、こんな私がなぜ、50歳を過ぎて研究の道にいるのか？をお話します。

私は冷や汗をかきながら本学理工学部建築学科を卒業しました。いや、卒業させてもらえたと言ったほうが適切でしょう。以来、幸か不幸か、職場は変わることがあっても、ずっと建築畑を歩き続けています。

さて、ここからが核心です。建築畑を歩き始めた途端、背後霊のようにくっついて離れないある疑問と一緒に歩き始めたんです。それは、「**住み心地とは何？**」です。いたってシンプルな疑問なのですが、これが案外厄介なものでして、30年以上も悩まされ続けてきました。

私は設計者としての自負がありましたから、何としても住み心地の良い家を設計してやろうと思っていましたし、つい最近まで偉そうにお施主に、住み心地を語っていました。しかし、どうやら設計の立場でしか、この問題を眺めていなかったようです。つまり住み心地を供給するもの、施主に与えるべきものとして、技術的思考で解決していたんです。



何となく違和感があるものの、信念がありましたから、気づきが遅くなったと思います。

ところが不思議なことに年を重ねていくと、信念が薄くなるという表現が良いのかどうか分かりませんが、そんなことは小さな問題に思えてきて、どうでもよくなるんです。するとまた色んなものが、見え始めるんです。住み心地とは、住まう人が感じるもので、一律でこれだ！という解はなく、千差万別であることを悟りました。今思うと当たり前の話ですよ。

そしてようやく、住み心地問題を建築的問題から人間的問題にシフトでき、積年の問題に終止符が打てるかと思いました。

ところが、今度は「人間って何？」が始まったんです。ヒューマンファクターの知識が乏しい私は、人の千差万別は数が多いので、せめて十人十色であればと、(本当は同じ意味です…) 冗談とも思えないような独り言を言い始めるようになりました。

そしてとうとう、仕方がない！ここしかない！と考え、縁遠いと思っていた学術の門を叩きました。これが本学総合学術研究科への入学動機です。当初、研究をどうしていいものかも分からず、また伝えたいことも上手くできず、指導教員の伊藤先生には、ご苦勞をおかけしたと思います。

おかげさまで、今は現在進行中の研究にも出口が見えてきましたし、次はこんな研究もしてみようかなどと考えるまでになりました。ありがとうございます。本当に皆様に感謝しています。

さて、これをお読みのみなさん、

こんな文理融合の仕方もあるんですよ!!

----- 今回の先輩 -----

(有) ヒロデザインラボ

岸 博之(きし ひろゆき) さん

現在、総合学術研究科博士後期課程 在学中。

